

栽培漁業技術開発事業調査*

(ハマフエフキ放流調査)

杉山 昭博

本県の重要魚種であるハマフエフキ資源の維持、増大をはかるため、種苗生産から人工放流までの技術体系を確立する。また、天然資源への放流効果を検証して、放流方法の改善を計る。

結果は平成4年度栽培漁業技術開発事業調査報告書（ハマフエフキ、タイワンガサミ）に記載しているため、ここでは放流調査の要約のみを示す。

1. 平均尾叉長80～98mmの人工種苗を塩屋湾内と国頭村辺土名漁港の2ヵ所に計56,650尾放流した。
2. 辺土名漁港内では放流後に音響給餌による管理を試みた。
3. 音響給餌機に蝟集した放流魚の消化管内容物に葉上動物が多く見られた。

* : 国庫補助事業